

セントラルフーズが高座豚枝肉共進会を開催、良質な枝肉を出品



(株)セントラルフーズ(村上正裕社長)は16日、「第28回高座豚枝肉共進会」を(株)ミートコンパニオンで9農家から27頭を出品して開催した。審査の結果、最優秀賞(3頭1群の部)は秦野市の門倉幸治さんが受賞。出品豚の中から1頭選ばれるチャンピオン豚賞も門倉幸治さんの出品豚が選出されダブル受賞となった。また、おいしい豚賞(パルミン酸、ステアリン酸、オレイン酸含有量などから選出)は、横山清さん(横浜市)が受賞した。

共進会は、高座豚のカット・成型を行う(株)ミートコンパニオンを会場に開催。出品者の紹介に続いて、同社原料部の北村陽三部長から審査基準について説明が行われた。審査は3頭1群で外観、肉質、脂肪、締まりをそれぞれ5点満点で評価して、合計点で序列を決定した。褒賞授与式では、村上社長から最優秀賞を受賞した門倉さんを筆頭に表彰状と記念品が授与された。そのあと、村上社長は「丹精込めた高座豚を安定供給してくれる生産者に感謝している。今後も高品質な高座豚の供給を期待する」と述べた。続いて、銘柄高座豚研究会の飯島瑞樹会長が謝辞を述べ閉会した。

そのあと、会場を慶福楼に移して懇親会に入り、同社の赤羽祐一郎常務取締役経営管理室長が開会の辞を述べた。続いて、同研究会の門倉敏夫副会長は「研究会としては、消費者に安全でおいしい高座豚を提供していく」と述べた。ミートコンパニオンの植村光一郎常務取締役は「高座豚のような付加価値のある誇れた豚肉の海外輸出をはじめ、観光客に向けて流通業者がしっかりと販売していきたい」と激励した。そのあと、金子畜産の金子渉代表取締役社長の乾杯の音頭で懇親会に入った。そのほかの入賞豚出品者は次のとおり。優秀賞 横山利佳(綾瀬市)▽優良賞 横山正至(横浜市)。

韓国の採卵鶏飼養農場で高病原性鳥インフルエンザの疑い

農水省は16日、韓国国家畜衛生当局が、同国全羅南道海南郡の採卵鶏飼養農場(飼養羽数約4万羽)で、高病原性鳥インフルエンザの疑い事例が確認されたことを受け、17日に都道府県に畜産関係者への情報提供、指導の強化のため通知した。

現地報道によれば、疑い事例の死亡羽数は約2千羽とされている。この疑い事例のほか、同国忠清北道陰城郡のあひる飼養農場(飼養羽数約1万羽)でも、死亡羽数の増加により当局あて通報があり、検査が予定されている。